

「弁当の日」が生み出す 「家族の時間」

二〇〇三年度「地域に根ざした食育コンクール 最優秀賞」の取り組みが中学校へ広がった

香川県・国分寺町立国分寺中学校校長 竹下和男

「親は手伝わなくて」と域に根ざした食育コンクール2003で農林水産大臣賞を受賞すると、一年間小学校で始めた。①子どもだけで作る ②五・六年生だけ ③十月から月一回、他県に広がり始めた。滝宮年度、各種マスコミに案内してきたが二年間で十件のは昨年度から「自分で作る取材だった。ところが」



滝宮小学校の「子どもがつくる弁当の日」は5年目

「弁当の日」のねらいはスタートから「家族」に重点を置いており、文部科学省・農林水産省・厚生労働省が推進する「食育」とは、少し距離を置いているつもりだ。少年に関わる悲しい事件や現象を少しでも改善するためには日本中の、家族のあり方を見直すことが急務である。子どもたちの「心の空腹感」に、親だけでなく子ども自身も気づいていないことが事態の深刻さを招いている。

「弁当の日」は必然的に「家族の時間」を各家庭に生み出す。自分が作ったおかずを食べて喜ぶ家族をみて、存在感を感じる生徒だと思っている。

「弁当の日」を通して「食」への関心が高まり、なべ料理を自分の得意料理にあげる生徒、「誰かに食べてもらいたい弁当」という、「弁当の日」のテーマに、仕事に励む父親や、いつも食事を作ってくれる母親のみならず、なくなった祖父母に食べしてほしいと弁当を作った生徒たち。それを喜ぶ家族たち。

「地域性や生徒の状況から、自分の学校では、弁当の広告塔でいるつもりだ。



国分寺中学校「自分で作る弁当の日」の自信作

安全・安心を支える農の現場

大事典シリーズ

環境保全型農業

大事典 全2巻

①施肥と土壌管理
②総合防除・土壌病害対策



食の安全への不安、環境破壊への反省から世界で広がる環境保全型農業。本来的な持続的・環境創造型農業確立への実践技術を集大成。農文協編、B5判 ●各15000円

有機廃棄物資源化大事典

有機廃棄物資源化推進会議編 ゼロエミッション社会へ向け、食品残渣、生ゴミ、下水汚泥等の主要廃棄物の優良堆肥化の方法と実例を集大成。 ●15750円

畜産環境対策大事典 第2版

農文協編 家畜排泄物処理法に対応。尿汚水、悪臭などの最新処理技術から売れる堆肥づくりと品質評価、バイオガスなど新利用まで。 ●15000円

天敵大事典 生態と利用

農文協編 化学農業に頼らない害虫防除への代替技術。市販天敵資材と土着天敵190種の生態や保護・活用・飼育法などを詳細に解説。 ●15000円

地域生物資源活用大事典

藤巻宏責任編集 地域の活性化、物産づくりに役立つ希少、未利用動植物・微生物約400種の生物特性、栽培・飼育法、利用法、活用事例まで紹介。 ●20000円

先進事例に学ぶ食育の推進②

食で深まる家族の絆、地域のつながり

これも地域に根ざした「食育」活動

故郷に残したい食材

地大根復活作戦「ねえてぶ花作大根」

山形県長井市・復活作戦事務局 遠藤孝太郎

私の住む山形県長井市に花作大根（はなづくりだいこん）という普通の大根の三分の一ほどしかない珍しい地大根がある。この大根を守り続けていたのが名前花作地区に住む友人の横澤芳一である。彼の言によれば花作大根は「硬い、苦い、穫れない」の三重苦だという。大根も個性的なのだが

この人、地元ではチョー有名なフォークソンググループのリーダーでシンガーソングライターでもある。こんな大根ではあるが、硬く締まった実のために漬けたときから半年ほど経過したときが食べ頃となる。漬けた大根は田植え時期の忙しいときの食材として重宝され、とても長い間作り続けられてきた。その

後、食のグローバル化、冷蔵庫などの保存技術が普及したことにより食卓から消えていった。あ、ほかのものでは代えることができない「パリパリ」とした食感をもう一度味わいたいと復活作戦を始めた。作戦の名前は「ねえてぶ花作大根」。「ねえてぶ」は原住民を表す「ネイティブ」からとったものであるが「グローバル」の反対語としての意味合いも込められている。

復活作戦は栽培する人を増やすことから始めることにした。いきおい商品化を目指して取り組みをはじめるところが多いのだが、私たちは花作大根の魅力が再認識され、地元で広く作られる事が復活の鍵だと思っている。何回かの栽培講習の後、収穫に合わせてワークショップを開催した。会場には昨年漬けたんだ花作大根がずらりと並び一年経ったとは思えないパリパリとした食感に驚く人、昔を懐かしむ人と大勢の人にその魅力を伝えることができた。

今年もまもなく種まきの時期を迎え、50名ほどの人が作付をはじめた。この秋は山形の特産品である紅花とのコラボレーションで花作大根の新たな魅力を引き出したいと思っている。ぜひ長井に来ていただき、他のものでは味わうことのできない「花作大根」の食感をお試しいただきたい。

（山形県長井市時庭一四〇九）



普通の大根(左)と花作大根(右) 持つ人は横澤芳一さん



収穫作業の様子（ワークショップで）



漬け方講習の様子

ビジュアルサイエンス

自然の中の人間シリーズ

花と人間編



自然の中の人間シリーズは、自然と人間の関係を探る、文化と生活のつながりを明らかにする。各36頁、A4変形判、各21000円、揃価21000円。農林水産省農林水産技術会議事務局監修、樋口春三編

- ① 暮らしのなかの花〈花の民俗誌〉
- ② 植物はなぜ花を咲かすのか〈花の科学〉
- ③ 四季に花を咲かせる〈品種改良と栽培技術〉
- ④ 花をつくる、花をとどける〈花の流通〉
- ⑤ 花と人間の新しい関係を探る〈花の未来〉
- ⑥ 花と人間のかかわり〈花の文化史〉
- ⑦ 花に魅せられた人々〈発見と分類〉
- ⑧ 花を生ける〈花と芸術〉
- ⑨ 日本の庭・世界の庭〈暮らしと庭〉
- ⑩ 環境をつくる花〈都市環境と花〉

【自然の中の人間シリーズ】

各全10巻 ●各揃価21000円

農文協

農業と人間編 西尾敏彦編
微生物と人間編 西尾道徳編
昆虫と人間編 梅谷敏二編
土と人間編 川井一之・構成
森と人間編 かこさとし・構成
川と人間編 松井光瑤・構成
海と人間編 志村博康監修
かこさとし・構成
山川健重・構成